

御舟入跡

岡山後楽園は、岡山城から旭川を挟んだ対岸の島にあります。御舟入跡は、江戸時代（1603-1867）に藩主が城から舟で庭園を訪れた時の舟着場として利用されていたもので、その際は藩主のために作られた特別な門（御成御門）から出入りしていました。御成御門は庭園南側すぐ裏手の岸にあります。

1800 年代に入ると、川から運ばれてきた堆積物で船着場が徐々に埋め尽くされていきました。その後、御成御門は東に移されました。現在の南門のある場所です。大正時代（1912-1926）に庭園の外側をめぐる遊歩道が整備された際、船着場はすべて埋め立てられ、入口も閉鎖されました。

2012 年、江戸時代の地図にもとづいた調査によって、船着場の跡地と御成御門へ続く石段（雁木）跡が発掘され、2014 年に一般公開されました。階段の他にも御成御門へと続く道の痕跡が今も残っています。